



ミニチュア・シュナウザーで気をつけたい病気は？

■ミニチュア・シュナウザーの疾患統計

2004年4月1日から2008年3月31日までにアニコムクラブの共済契約に加入した0～10歳のミニチュア・シュナウザーは19,338頭で、品種別の割合では11番目に多い。

犬全体と比べて、ミニチュア・シュナウザーの発症率が高い疾患は、18分類中9疾患あった。
犬全体に比べて、肝・胆道疾患(肝機能不全など)と泌尿器疾患(膀胱炎など)の発症率が1.9倍、血液・免疫疾患(貧血など)の発症率が1.8倍と特に高かった。そのほか、男の子では、生殖器系疾患(前立腺肥大など)と腫瘍疾患(皮膚腫瘍など)が、女の子では内分泌疾患(甲状腺機能低下症など)の発症率が高かった(表)。

※ 2004年4月1日から2008年3月31日までにアニコムクラブの共済制度に加入したどうぶつのうち、契約期間が1年間で、契約満了または死亡解約となった犬681,039頭(男の子364,423頭、犬の女の子316,616頭)を対象に調査。

※契約満了または死亡解約となった各個体の1年毎の契約について、その契約が開始した年齢毎に1契約=1頭とみなし、当該疾病について1回以上の請求があった犬の割合を発症率とした。

【表】ミニチュア・シュナウザーと犬全体の疾患別発症率 (0～10歳)

		ミニチュア・シュナウザー (a)	犬全体(b)	a/b
頭数		19,338	681,039	
1	04. 肝・胆道疾患	5.7%	3.0%	1.9
2	05. 泌尿器疾患	10.9%	5.8%	1.9
3	13. 血液・免疫疾患	0.7%	0.4%	1.8
4	14. 内分泌疾患	2.4%	1.6%	1.5
5	18. 腫瘍疾患	7.7%	6.3%	1.2
6	06. 生殖器系疾患	2.2%	1.9%	1.2
7	12. 皮膚疾患	25.1%	22.1%	1.1
8	07. 神経疾患	2.1%	1.9%	1.1
9	03. 消化器疾患	13.4%	12.7%	1.1

男の子				女の子			
頭数	シュナウザー(a)	犬全体(b)	a/b	頭数	シュナウザー(a)	犬全体(b)	a/b
1	9,877	364,423		1	9,461	316,616	
1	0.8%	0.3%	2.7	1	12.0%	6.6%	1.8
2	6.1%	3.0%	2.0	2	5.3%	3.0%	1.8
3	9.8%	4.9%	2.0	3	3.1%	1.7%	1.8
4	1.7%	1.0%	1.7	4	0.5%	0.4%	1.2
5	7.7%	5.3%	1.5	5	25.0%	22.0%	1.1

ミニチュア・シュナウザーは、肝・胆道疾患、泌尿器疾患、血液・免疫疾患に特に注意が必要！

